

米中対立下の台湾エレクトロニクス産業

—— 世界の中のポジション

米中対立により世界経済の分断が進む中、台湾のエレクトロニクス産業がその焦点となっている。

ジェットロ・アジア経済研究所 研究推進部
部長 佐藤幸人

コロナ禍の中の活況

今年、世界は空前の奔流にさらされている。新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡大し、今なお収束の兆しがみえない。米中対立は激しさを増すばかりである。しかし、沈鬱な世界情勢の中にありながら、台湾のエレクトロニクス産業は活況を呈している。この奇妙な繁栄は、何によってもたらされているのであろうか。

基本的な条件として、台湾が防疫に成功し、経済活動が維持されているということがあるだろう。感染拡大の震源地であった中国でも拡大が抑えられ、多くの台湾企業の生産拠点が活動を再開している。また、需要側ではパソコンなどのエレクトロニクス製品に対する世界的な巣ごもり需要の発生が大きく寄与している。

こういった要因に加えて米中対立もまた、少なくとも短期的には台湾エレクトロニクス産業に対する需要を押し上げている。そこから世界のエレクトロニクス産業における台湾の立ち位置も見えてくる。本稿ではこの点を中心に考察を試みたい。

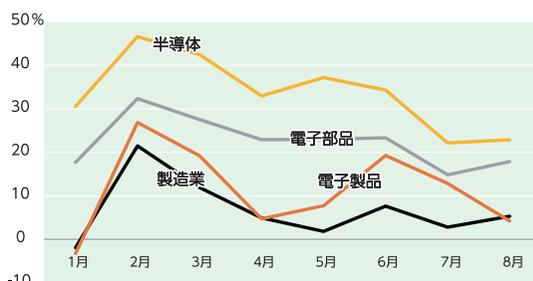
成長をけん引する電子部品

新型コロナウイルスは台湾経済にもダメージを与えている。しかしながら、製造業は成長を維持している。化学や機械といった他の主要産

業が軒並みマイナス成長に陥る中、図に示すように、エレクトロニクス産業が製造業の成長を支えている。このうち電子製品の成長は、前述のようにパソコンなどに対する世界的な巣ごもり需要の増大によるところが大きい。

電子部品の成長はさらに顕著である。中でも半導体の成長が著しい。ひとつの要因は台湾企業による電子製品の生産拡大の波及効果であるが、そればかりではない。中国企業の需要の拡大も重要な要因であり、それには米中対立が深く関わっている。

図 2020年の製造業およびエレクトロニクス産業の生産状況
(生産指数の前年同期に対する増加率)



(注) 7月は改定値、8月は暫定値
(出所) 台湾經濟部 WEB サイトより作成

製造技術の最先端を走る TSMC

米中対立は今年に入って、5G技術とその分野で世界をリードするファーウェイ・テクノロジーズ(華為技術)を焦点とした技術覇権争いの様相を強めている。アメリカはファーウェイを封じ込めるため、その技術や部品の海外からの調